

定期テストの余白エッセイ

「試験に出ない地学 Series」 中間総括'2005'

(本 編)

Essays on the blank of geoscience exams named
“Shiken ni Denai Chigaku series” 2005

岡 本 義 雄

Yoshio OKAMOTO

附属天王寺中・高 研究集録 第48集 (平成17年度) 別刷

平成18年3月 発行

Bulletin of the Tennoji Junior & Senior High School

Attached to Osaka Kyoiku University

No.48 (March,2006)

大阪教育大学附属天王寺中学校
大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎

定期テストの余白エッセイ

「試験に出ない地学 Series」 中間総括'2005'

(本編)

おか もと よし お
岡 本 義 雄

Essays on the blank of geoscience exams named “Shiken ni Denai Chigaku series” 2005

Yoshio OKAMOTO

抄録：教員になった1970年代末以降、地学の定期テストの余白に書き続けた生徒用のエッセイ「試験に出ない地学 Series」を紹介する。最初は生徒に地学への動機付けを考え書き始めたが、現在では自分のライフワークとして書くのが楽しみとってきている。内容は天文学から地質学と幅広く地球科学に関係する分野を扱う。エッセイが扱うのは地学現象に関する興味ある見方、発見の秘話、研究者の人となりなどである。この文章の目的はまず生徒に地学を学ぶための動機付けのため。次に理系の生徒には、文学や歴史の重要性も考えてもらうこと。文系の生徒にはその逆を考えてもらうことである。そして最後はこれが重要であるが、学校での勉強は決してテストで点を取るだけでなく、科学や人間を取り巻く様々な物事を考えていくことであるという私のメッセージを伝えるためである。エッセイ全文はこの小論の最後に添付している。

キーワード：地学、定期テスト、エッセイ、試験に出ない

1. はじめに

1970年代の末、大阪府立高校の地学の正式採用教員になってしばらくした頃から、学期ごとの定期テストの余白にときどき、地学に関係したコラムかエッセイのようなものを書き始めた。授業や勉強になかなか興味を持ってない生徒にも何とか地学の面白さと伝えたいという些細な気持ちでスタートした。当時受験問題集のベストセラーに「試験に出る〇〇シリーズ」というのがあって、何となくその功利思考を毛嫌いしていたのだが、これをもじって私のエッセイのシリーズにはわざと「試験に出ない地学 Series」と名前を付けた。最初は本当に文章の訓練程度で始めたが、段々と気持ちが入ってきて、転勤や他の科目を

担当した際も脈々と続けてきた。例えば化学を担当した年は「試験に出ない化学」というように。

特に現在の勤務校に転勤してきた2000年以降、定期テストの余白は欠かさず埋めてきている。最近ではむしろこのエッセイを書くために、用紙の余白を作るのにまで気を遣うようになってしまった。またテスト作成時間に匹敵するくらいネタ探しや文章校正を行うまでになってきた。本稿では現在までに書きためた2006年1月現在での筆者の手元に記録がある全作品の内容を簡単に紹介し、後の方に資料として全作品を添付することにする。

2. 作品の背景とねらい

コラムの内容は地学に関係する範囲なら何でも扱うが、初期の頃は地学現象のちょっと一般に知られていない興味ある見方などが中心であった。それが最近では、地学関係のニューや研究者の人となりなどを扱うことが増えてきた。それは地球科学分野には科学者の伝記や発見物語の一般向けの解説が極端に少なかったという事情がある。筆者はこの原因として、他の科学の分野では優れた業績に与えられるノーベル賞がなぜか地球科学分野だけはないということも大きく影響しているようにも思える。

さて、作品を書き続けているポリシーとしては

1. とかく物理、化学と比べて扱いが地味な地球科学の分野にも、もっと焦点をあてた話題提供や話題発掘がしたかったこと。
 2. 自然科学に興味を持つ理系の生徒には逆に、研究者の人間くささや運命のいたずら、さらに文学作品の面白さにも興味を持ってほしかったこと。
 3. 逆に自然科学が嫌いな文系の生徒には、人間のエピソードや秘話から科学そのものにも興味を發展させてほしかったこと。
 4. さらに<試験を受けて良い点を取ることだけが高校の勉強ではないよ>という私の信念を伝えたかったこと
- などが挙げられる。

3. 内容の紹介

エッセイは定期テスト(年5回)の余白に、各回読みきりで何かのテーマの紹介と私の意見を数行から数十行書く。最初は形式は決まっていなかったが、その頃読んでいたものや、かつて心に残った文学作品などの気の利いた一節を引用して終わるというフォーマットに次第に収斂してきた。題は今にいたるも特に設けていない。また図もごく初期の例外を除くと添付していない。文章のみで勝負という形である。なお過去に書いたものの一部はすでに資料が散逸していて再構成できていない。ここではあくまで筆者が現時点で保存しているもののみを紹介する。

全作品の内容と年次を時代順、引用文学作品を表にすると以下ようになる。

番号	主な題材	年次	引用文学作品等
1	地震の震源距離に関する大森公式	1978	小松左京「復活の日」

2	山陰と山陽の風景の違いを地質の違いから分析	1979	志賀直哉「城崎にて」
3	雷雲により髪が立つ体験とセントエルモの火	1979	ゲーテ「ファウスト第1部」
4	ニュータウンで見た二重の虹	1979	ダンテ「新曲（第2曲）」
5	晴雨計と毛髪湿度計	1980	Genesis, vii.12
6	1年間地学を担当した生徒へのはなむけの自作の詩	1980	
7	1年間地学を担当した生徒へのはなむけの自作の詩	1981	
8	アトランティス伝説とサントリン島の噴火	1981	光瀬 龍「百億の昼と千億の夜」
9	緯度と太陽高度をレッドゼプリンの曲の歌詞との関連で記す	1983	
10	富士山の頂上の角度と太宰治	1987	太宰治「走れメロス」
11	番外編 長渕剛の唄「乾杯」と教え子の結婚式	1988	
12	番外編 フォーククルセダーズ「青年は荒野をめざす」	1989 ?	
13	松尾芭蕉が象潟で読んだ句と地震時の地殻変動	1989	
14	火山と温泉の関係と近畿地方の例外について	1990	宮沢賢治「グスコーブドリの伝記」
15	ブリューゲルの絵と小氷期など名画と地学現象の関係	1990	野間宏「暗い絵」
16	筆者のトパーズなど鉱物採集の体験談	1993	池澤夏樹「真昼のプリニウス」
17	慶長の伏見大地震と加藤清正	1993	斎藤茂吉の句
18	火山噴火後の異常な夕焼けと筆者の彗星探索用望遠鏡製作記	1992	村上春樹「ノルウェイの森」
19	高速増殖炉「もんじゅ」の事故	1995	Led Zeppelin "Stairway to Heaven"
20	富士の頂角再考と太宰の「富嶽百景」	2000	石川桂郎「俳句歳時記（夏の

			部)」
21	「黒潮古陸」説と地質学者	2000	辺見 庸「もの食う人々」
22	ムンクとゴーギャンの絵で緯度の違いを考える	2000	マイケル・クライトン「ジュラシックパーク」
23	旧石器遺跡捏造事件と火星の運河伝説	2000	光瀬 龍「東キャナル文書」
24	地動説の誕生前後とフィリピンの友人からのメール	2001	松本 隆「微熱少年」
25	三宅島火山からの火山ガス放出	2001	丸山健二「千日の瑠璃」
26	松尾芭蕉の句と地学	2001	F. フォーサイス「戦争の犬たち」
27	キング牧師の有名な演説における地学的内容	2001	楡 周平「クーデター」
28	賈蘭坡による北京原人発掘秘話とその後の展開	2001	開高 健「輝ける闇」
29	アルバレッツ親子によるK/T境界隕石衝突説	2002	福永武彦「死の島」
30	世界最大ダイヤモンド発見秘話とダイヤを巡るエピソード	2002	和辻哲郎「風土」
31	小さな町工場と日本人2人のノーベル賞	2002	N.Oreskes 編集 「Plate Tectonics 第4章」
32	ノルマンディ上陸作戦と潮汐の話	2002	村田信一「戦争の裏側」
33	20世紀初頭の天文学者の人となりの紹介	2003	佐藤賢一「傭兵ピエール」
34	9/11の悲劇などを記録した地震観測網	2003	田村隆一「インド酔夢行」
35	昭和新山の誕生と三松正夫	2003	新田次郎「火の島」
36	人工生命の大家クリスラングトンのやり直し人生	2003	福井晴敏「亡国のイージス」
37	隕石衝突と彗星捜索に賭けたシューメーカーの一生	2003	島尾敏雄「出発は遂に訪れず」
38	常温核融合騒ぎあれこれ	2004	綿矢りさ「蹴りたい背中」
39	織田信長と望遠鏡の発明の時代考証	2004	マルコポーロ「東方見聞録1」
40	岩塩鉱山とナチスドイツの隠し資産絵画	2004	旧約聖書「創世記」

41	地震予知を巡る「棕平虹」とトリック	2004	新田次郎「虹の人」
42	始祖鳥発見秘話と進化論	2004	手塚治虫「火の鳥4, 鳳凰編」
43	木村栄のz項とチャンドラー極運動	2005	宮沢賢治「風野又三郎」
44	スポーツシューズの漂着と海流	2005	トム・克蘭シー「レッド・オクトーバーを追え」
45	ニューファンドランド沖の乱泥流発見の話	2005	小松左京「日本沈没」
46	バージェス頁岩発見物語とグルードの考え方	2005	浅田 彰「ヘルメスの音楽」
47	ホフマンの全地球凍結仮説	2005	春江一也「プラハの春」

参考までに上記内容を下記のジャンルと題材として採用した主な内容で分類すると以下のようになる。

分野	総数
天文分野	10
気象海洋分野	6
固体地球分野	23
その他	8

題材	総数
人物	18
自然現象	12
実験・観察・器械	8
その他	9

筆者の専門が地球物理なのでどうしても固体地球科学の内容が多くなっている。また、文学好きな人なら、引用文学作品から私のお気に入りの読書傾向やその変化も読み取れると思う。

4. 生徒の感想

筆者の定期テストには、解答欄の最後に必ず感想欄をつけて、生徒のそのときどきの授業やテストなどに対する感想を聞いてもらってきた。これは私がこのエッセイとともに教員になってから、欠かさず行っている事である。感想を書いてくれる生徒は必ずしも多くない。というより毎回問題数が多いのか、感想を書く時間がないといつもしかられている。それでもこのコラムに関する好意的な感想を書いてくれる生徒も増えてきた。毎回このコラムを楽しみにしていると書いてくれる生徒も少なからずいる。また、生徒の方からみれば必修の1年間、あるいは地学を選択する生徒でも最大で3年分しか目にしないわけなので、最近筆者の個人サイトで過去の文章を生徒向けに公開している。

5. おわりに

こうしてまとめてみると、そのエッセイを書いた当時の学校の雰囲気や生徒の顔が次々と浮かんできた。あまり仕事上のメモや日記を残さなかった筆者としては、教員生活の大

部分で当時を還りみる資料はそれほどない。このエッセイのまとめはそういう意味で私の教員としての仕事のある面での中間総括となったことが嬉しい。また生徒相手にスタートしたシリーズがいつのまにか、試験監督に入る先生にも読んでもらって、いろいろ感想をもらうようにもなってきた。そしてこの頃は自分自身が地球科学のさらなる勉強をするつもりで、原稿を書き続けているといっても過言ではない。ネタ探しにおいても最初の頃はちょっとしたテーマでも、関連資料を探すのには図書館を往復するなど大変苦勞した。しかし現在ではインターネットとロボット検索システム google という世界最強の私的図書館が存在する。また昔は手に入りにくかった専門分野の洋書も amazon.com で簡単に手に入れることができるようになった。それでも引用する文学作品だけはやはり自分で探して苦勞して地道に読まなければいけない。そういう意味でネットはまだ読書体験を乗り越えてはいない。定年を迎えたときにこの続編つまり最終総括を書けることを熱望して、ひとまずペンを置くことにする。

6. 謝辞

本稿の資料作成及び、まとめにあたって、平成17年度科研費補助金奨励研究No.17914008の一部を使用しました。また本校英語科教諭東元邦夫氏には英文 summery について有益な助言をいただきました。記して感謝します。

7. 引用参考文献

あまりに数が多いので省略します。添付資料中の記述をごらんください。

Summery :

My essays on geosciences for high school students named “Shiken ni Denai Chigaku Series” are introduced in this paper. The title means “Some interesting stories about geosciences without test score”. In spite of some lacks, it has lasted since late 1970’s when I became a high school teacher of geoscience. The essays are written at the end of terminal exams of my geoscience classes. At first, these essays were written to motivate students’ curiosity toward geoscience, but now, I am enjoying my writings as a life work. The categories of stories are varied from astronomy to geology. Most of them treat episodes of discovery, critical views about geoscience topics, curious researchers’ characters or even my interesting experiences. The essays consist of short stories and a few lines quoted from my favorite novels. The purpose of my essays is as follows; first the stories would fascinate students and make them motivate studying geoscience. Second, the science-oriented students would learn the importance of literary or historical view about science through these essays and literary-oriented students the importance of scientific view. Finally, I strongly want to convey my belief to my students that the importance of studying natural science is not for their test score only, but their careful consideration about the relationship among nature and human beings. All stories are attached in the end of this paper.